

令和2年度 建設系学生へのリモート講義 開催報告その2（建築学科編）

永井 和典

1. 日程：

令和3年1月14日(木)

2. 時間：

9:00～10:00(1時限目)

3. 場所：

東海大学湘南キャンパス

19号館417号室(建築学科渡部教授の研究室)

4. 参加者：

・東海大学教員:渡部教授

・東海大学学生:約30名

・望星技術士会:永井

川本工業(株):高橋氏(東海大OB)、小林氏



【写真1. 会場となった19号館】

5. 概要

目的は土木工学科と同様であるが、建築学科の渡部教授から、永井の所属企業に対して建設業界と建築設備業界（空調設備・給排水設備）の実態について授業の中で話をしてもらえないか、と相談のあったことが発端となった。

永井が昨年の2月に所属企業において、設計部から異動となり、新卒採用も担当することになったことが追い風となり、大学との接点強化のためとんとん拍子で話が進行した。

このような経緯のため、建設業の具体的な仕事内容を中心に話をさせていただいた。とはいうものの、当社単独の講義ではなく望星技術士会との共催という形を取り、望星技術士会には全面的にバックアップをしていただいた。

6. 講義内容

土木工学科とは異なり、渡部教授の研究室からリモート講義を行うこととなった。時節柄、密接とにならないよう交代で研究室に入っの講義である。院生の方にお手伝いいただきながら緊張した面持ちでスタート。とはいうものの、リモートで相手が見えないせいか、土木工学科と同様にちょっと拍子抜け。その後徐々に本領発揮となった。講義の概要は以下の通り。

【9:00～9:05】

渡部教授より「講義の趣旨」の説明。

【9:05～9:30】

望星技術士会(川本工業)永井より「建設業の仕事内容・やりがい、ゼネコンとサブコンの違い、設計業務、施工現場の紹介等について」の説明。

【9:30～9:40】

川本工業高橋氏より「建築設備業界における施工管理の実際について」の説明。

【9:40～9:55】

永井(前述)より「ゼネコン資格者ランキング(一級建築士・技術士他)、技術士試験・制度等について」の説明。

【9:55～10:00】

川本工業小林氏より「会社紹介、本学卒業生の当社における所属部署等について」の説明。

※授業終了後、講義を聴講した学生は感想を、聴講しなかった学生は建築設備について調べたことを簡単なレポートにして提出した。



【写真2. 講義前の打合せ風景(永井)】

7. 講義の様子と学生からのコメント

対象となる学生は約 100 名ということだったが、当講義の聴講は必須ではなく、コメント内容から推察すると 30 名程度が聴講したようである。多くの内容を短時間の講義に押し込んだため、どこまで理解してもらえたか不安だったが、コメントを見る限り好評だったと感じている。

受講生が 1 年生だったこともあり、専門的な内容はなるべく避け経験談を多く入れるよう配慮した。建築学科の学生は、比較的目的意識が高く、建物の意匠設計（デザイン）をやりたくて入学するケースが多い。そのため 1 級建築士についてはよく知っているので、そのあたりを足掛かりに技術士制度とその概要について説明した。技術士という資格についても、興味を持っていたように見える。

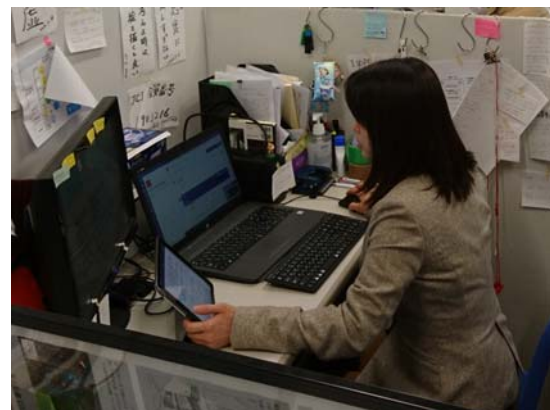
講義に対する学生からの主なコメント（感想）を表 1 にまとめた。学生からはしっかりしたコメントが多く、東海大学の将来について明るい兆しを見出すことができた点は大きな成果だったと感じている。なお、講義に関するコメントが 30 件程度と多くなかったため、代表的なコメントを記載するに留めたので、ご了承ください。

【表 1. 学生からのコメントまとめ】

No	コメント（感想）
1	仕事内容がよくイメージできた
2	授業で習ったことの裏付けができた
3	就職について考えるきっかけとなった
4	技術士という資格を初めて知った
5	技術士と 1 級建築士の重要性がよくわかった
6	資格取得に挑戦したいと思った
7	実際の体験談が聞けてよかった
8	建築設備の大切さがわかった
9	省エネに興味を持った
10	空調の消費エネルギーが多いので驚いた
11	改修工事まで考えて建設するとは知らなかった
12	ゼネコンとサブコン（専門工事）の違いが分かった



【写真 3. 高橋氏の講義風景】



【写真 4. 小林氏の講義風景】

8. まとめ・感想

建築学科では、土木工学科と異なり前述のように望星技術士会と川本工業の共催という形で講義を行わせていただいた。施工入門的な内容の授業だったこともあり、技術士に関しては、あまり時間をかけて紹介することができなかった。しかし、1 級建築士以外にも重要な資格があることについて、建築学科の学生にも認識していただけたと思う。

建築学科では、土木工学科ほど技術士は重要視されていないが、幸いなことに渡部教授には一定以上のご認識をいただいている。技術士の認知について、まずは小さな一歩を踏み出すことができた実感している。次年度以降も小さくてもいいので、一歩ずつ歩んでいきたい。

最後に、今回の講義に際しご理解とご協力をいただいた建築学科の渡部教授に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

以上